

愛称を募集します

「のと九十九湾観光交流センター」は、観光案内所、地域産業の展示・販売スペース、自然体験の設備などの機能を備える施設として越前市内に建設するもので、イカの水揚げ日本有数の規模を誇る「イカのまち小木」の発信や、日本百景の一つに数えられる九十九湾観光の拠点としての役割が期待されます。親しみやすく、わかりやすい愛称をご応募ください。



◇建設概要◇

【建設場所】 能登町字越坂 18 字 6 番地 1

【施設】 観光案内所、イカ漁の展示スペース、地元特産品直売所、レストラン、マリンレジャー施設、公衆トイレ

【基本コンセプト】

- ①賑わいの創出 「イカのまち小木」を発信する拠点として、新鮮なイカを使った料理の提供や、イカ加工品の販売、漁業文化・祭りの情報発信を行い、観光振興を図る。
- ②九十九湾観光の拠点 九十九湾観光機能強化として、遊覧船、マリンスポーツ機能と連携し、観光案内機能の充実を図る。
- ③休憩機能の強化 緑地を整備し、普段は子供が遊ぶとともにイベントの開催も可能な空間とする。トイレは 24 時間開放し、休憩機能の強化を図る。

◇募集要項◇

【募集期間】 12 月 3 日(月)～1 月 11 日(金)まで

【応募資格】 能登町在住者、出身者、通勤・通学している人

【応募方法】 応募用紙、ハガキ、FAX、メールなどで応募して下さい。

①氏名、性別、年齢 ②住所 ③連絡先(電話番号) ④愛称 ⑤愛称の説明

※「⑤愛称の説明」は必須です。記載のない場合は無効となります。

※応募用紙は、役場各庁舎および支所窓口を設置。または、町ホームページからダウンロードして下さい。

【応募先】 役場各庁舎窓口または、能登町役場 建設課まで

〒928-0392 鳳珠郡能登町字柳田仁部 54 番地

☎ 0768-76-8304 FAX76-0129 E-mail:kensetsu@town.noto.lg.jp

【問合せ先】 能登町役場 建設課☎ 76-8304

【注意事項】 ※愛称の前後どちらかに「イカの駅」を付けて下さい。

- ・施設のコンセプトや特徴がイメージできるもの
- ・地域住民や町民以外の方々に親しみやすく、わかりやすいもの
- ・公共性等から愛称として相応しいもの
- ・他の名称や商標などに類似していないもの

【その他】

- ・最優秀賞などに記念品を贈呈します。(各賞とも、同名の愛称に複数の応募があった場合は抽選となります。)
- ・応募は1人2点までとします。



海側イメージ図

小木小学校・「教育奨励賞」努力賞を受賞

海の学びは町や世界を知ること

海洋教育の普及に弾み

小木小学校が文部科学省から教育課程特例校の認定を受け平成27年から取り組む海洋教育「里海科」の実践が評価され、10月22日、第33回時事通信社「教育奨励賞」努力賞を受賞しました。



受賞を喜ぶ児童

「教育奨励賞」は、時事通信社が文部科学省の後援を得て創設された賞で、創造性に富んだ特色ある教育で顕著な成果を挙げた学校をたたえるものです。小木小学校は石川県の代表校に選出され、全国63件70の学校(幼稚園から高校)の中から選定されました。現在の6年生7人は「里海科」ができた初年度から学んできた児童です。大橋咲穂さんは、「里海科では環境や漁業などを詳しく知れる」と通常の授業との違いに触れ「環境を守る行事にも積極的に参加したいと思うようになった」と学びでの変化を話しました。科目を担当する加賀浩教諭は「地域の理解と協力があってこそ児童が学びを深め、今回の受賞に繋がった」と感謝を述べ「小木の子どもたちが海に愛着と誇りを持つような授業スタイルを確立できるよう取組みたい」と今後の展望を語りました。また、小木に暮らしながらも、児童に海への関心が無かった3年前を振り返り「現在では、海のちよつとした変化でも教室で話題に上るようになった」と、興味関心が高まってきたことを喜びました。

真脇トンネル開通 真脇―小木地区

アクセス向上

地域の活性化を後押し

11月11日、真脇―小木間を結ぶ真脇トンネルの開通式が小木地内で開かれ、関係者や地区住民ら約150人が開通を祝いました。1932年に整備された以前のトンネルは、幅員が狭く車両がすれ違うことが困難で老朽化も目立ったことから、今回2車線に拡幅



テープカット、くす玉割りが行われ開通を喜ぶ。



アトラクションでは小木こども園と高倉保育所の園児が鼓笛演奏、よさこい踊りをそれぞれ披露した

しトンネルの利便性向上が図られました。

谷本正憲県知事が式辞で「観光地へのアクセスが向上し広域交流の活性化に繋がることを期待する」と述べ、持木町長が謝辞で「観光誘致の重要な幹線道路として地域の支えになる」と期待を寄せました。

議 会

第1回能登町議会 11月会議

議 会議員選挙後初となる第1回能登町議会11月会議は、11月6日に開かれました。会期を1日間と定め、議長選挙などが行われ、議長には河田信彰氏が、副議長には國盛孝昭氏がそれぞれ当選しました。



國盛孝昭 副議長

河田信彰 議長

■総務産業建設常任委員会

委員長 國盛孝昭
副委員長 吉田義法
委員 小路政敏、酒元法子、河田信彰、志幸松栄、宮田勝三

■教育厚生常任委員会

委員長 田端雄市
副委員長 馬場 等
委員 堂前利昭、金七祐太郎、市濱 等、向峠茂人、鍛冶谷眞一

■議会運営委員会

委員長 向峠茂人
副委員長 金七祐太郎
委員 田端雄市、國盛孝昭、小路政敏、宮田勝三

■広報編集特別委員会

委員長 酒元法子
副委員長 堂前利昭
委員 吉田義法、馬場 等、河田信彰、鍛冶谷眞一

■奥能登広域圏事務組合議会議員

向峠茂人、宮田勝三
奥能登クリーン組合議会議員
馬場 等、金七祐太郎、市濱 等、小路政敏、酒元法子、河田信彰

■のと鉄道運営助成基金事務組合議会議員

馬場 等
監査委員
鍛冶谷眞一

秋の叙勲

秋の叙勲が11月3日に発表され、2氏が受章されました。主な功績を紹介します。



旭日双光章
舩谷 一宏さん（71） 〓松波 〓

医師としてのポリシーは「患者さんと共に病気に向き合い、幸福で楽しい人生が送れるお手伝いをする」と話す舩谷さん。昭和57年に父の後を継ぎ、以来30年以上にわたり地域のかかりつけ医として診察や往診に従事。学校医や産業医も務め、また、内浦訪問看護ステーション開設にも携わるなど、医療・福祉・介護など幅広い分野から地域住民の健康維持に貢献しました。

医療機関が無いと地域のコミュニティーは成り立ちません。地域唯一の医療機関としての使命感を胸に70歳を越えた現在も日夜医療に向き合います。「地区の開業医のなかでも一番の高齢だが、気力・体力が続く限り、叙勲の名に恥じぬよう頑張りたい」と力を込めます。

瑞宝章

藪下敏夫さん（76） 〓不動寺 〓

昭和38年4月に内浦町消防団に入団以来、平成11年7月までの長きにわたり、その使命を自覚し、任務を遂行してきました。平成5年には不動寺分団長に就任し、永年培ってきた豊富な知識と経験を生かし団員一人ひとりの消防技術向上を図ったほか、火災や風水害の現場では団員をまとめ上げ被害の拡大防止に努めてきました。

町の安全を支える団員としての意識を常に持ち日々生活を送っていた藪下さん。災害の発生と時報、どちらもサイレンが鳴らされていた当時、「サイレンを聞くと火災が発生したのかと緊張したが、時報だとわかり胸をなで下ろしたこともあった」と振り返ります。「仕事との両立はみんな大変だったと思う」と話し「活動を行えたのは班長、団員みんなの支えがあったから」と感謝を述べました。



内浦総合支所 安全祈願祭・起工式

行政サービスの拠点 地域の賑わいの核として

内浦総合支所の建設工事安全祈願祭と起工式が11月7日、役場内浦庁舎横の建設予定地で行われ、関係者ら約50人が工事の安全を祈り、着工を祝いました。支所は、鉄骨造り平屋建て、延床面積は1734.65平方メートルで、施設には松波公民館や図書室があり、社会福祉協議会も入ります。また、各種イベントに対応できる大ホールや地域の集会などに活用できる研修室が設けられます。起工式では、持木町長が「新たな地区住民の憩いの場として、地域のシンボルとなることを願います」と式辞を述べ期待を寄せました。



工事の安全を祈りくわ入れをする
持木町長



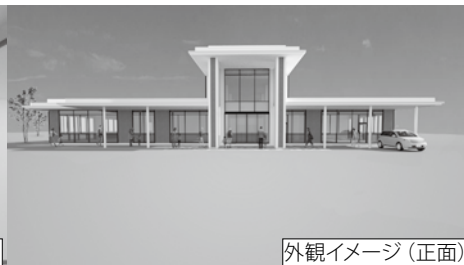
来賓の山口県議会議員や工事関係者らが参列



内観イメージ（大ホール）



内観イメージ（プロムナード）



外観イメージ（正面）

お気に入りの写真で マイナンバーカードを作ませんか？



カードに載せる顔写真は自分で用意するので、納得いくまで撮り直すことができます。

スマートフォンを扱うほうが楽チンな方は、申請書のQRコードを読み取り、専用ページにアクセス。案内に沿ってスマートフォンで撮影した写真を送信！

後に必要情報を登録して申請完了です。紙の申請書で申請する方は、写真があればOKです。発行無料。カードができるまで約1か月程度かかります。確定申告を電子申請でお考えの方は、早めのご準備を。

毎週木曜日は 18:30 まで窓口が開いています

能都・内浦・柳田庁舎では、毎週木曜日に夕方6時半まで窓口を開いています。お仕事帰りに各種証明書の発行手続きができます。

能都庁舎ではマイナンバーカードの受け取りも可能です。証明発行以外のお手続きについては、事前にお問い合わせいただくとスムーズです。

〓住民課 ☎ 62-8500



大学生との交流を通して 町の未来や自分の将来を考える



中学・高校生と意見を交換する早稲田大生（9月19日）

共創インターンシップ

金沢大生が能登高生と交流

7月27日、いしかわ学生定着推進協議会「共創インターンシップ能登町プログラム」の一環で、金沢大学の学生3人がまちなか鳳雛塾を訪れ、能登高生と交流しました。金沢大学地域連携推進センターの蜂屋大八准教授による司会進行により、「大学生と一緒に考える能登町の未来と自分の未来」と題して、大学生と能登高生が話し合いました。

ら自分や町の将来について考え、そこから日頃の学習に対する意義を見出していくための機会づくりも行っています。

早稲田大学森林環境科学研究所

能登の生活について意見交換

9月19日には、東京から早稲田大学の学生4人がまちなか鳳雛塾を訪れ、能登高生や町内の中学生と交流しました。小木出身で、早稲田大学・森林環境科学研究所の平塚基志准教授が「能登で考えて実践に」というテーマで講義をした後、大学生と生徒たちが大学生活や能登での生活について話し合いました。

東京外国語大学生が

英語学習法について生徒と話し合う

9月19～20日の2日間は、東京外国語大学の大学生で長期の海外生活経験を持つ関谷昂さんがまちなか鳳雛塾を訪れ、英語学習の方法などについて生徒と話し合いました。



いずれの機会においても、生徒たちに普段なかなか得られない刺激と気づきを与えてくれました。今後も大学生や大学の先生をゲストとしてまちなか鳳雛塾にお招きして、生徒が将来設計のヒントを得られる機会を増やしていきます。

12月のまちなか鳳雛塾スケジュール

受講対象者	月	火	水	木	金	土
全学年	16:00～22:00 自律学習開放					14:00～22:00 自律学習開放
高校生	19:30～22:00 学習面談日				20:00～21:00 まちなかゼミ	
中学生・発展				19:30～21:00 一斉演習日※①		
中学生・基本			19:30～21:00 一斉演習日※①			
小学4～6年生		16:00～18:00 一斉演習日※②				

※①…中学生の一斉演習日は、学力効果向上を目的に習熟度別に「発展」「基本」の2クラスに分け全学年合同で実施。クラス分けは入塾時のテスト結果で判断。 ※②…小学生は㊸・㊹のどちらかを選択

- 開塾時間…月～金曜16:00～22:00、土曜14:00～22:00（日・祝は閉塾）
- 毎月29日～31日は一斉演習を原則休講。自律学習開放は行っています。
- 小中学生は各クラスごとに定員あり。定員になり次第募集を停止します。

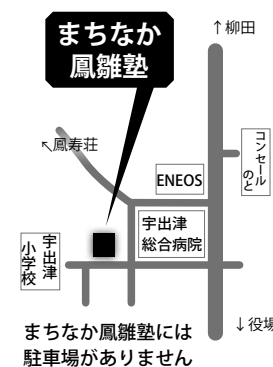
まちなか鳳雛塾

☎ 0768-84-5282

（ひかり電話のため局番が「84」です。）

受付時間 ㊸～㊿の 16:00～22:00

塾生の保護者や入塾を考えている方は、授業見学随時可能です。お気軽にご相談ください。

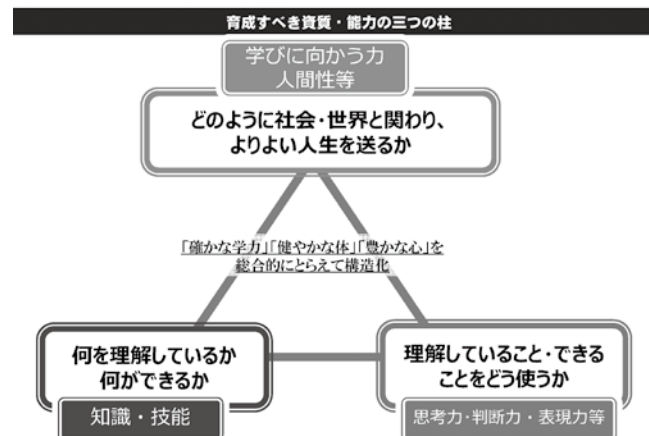


教育コラム

「学びに向かう力」の大切さ

まちなか鳳雛塾では、先生が前に立ち黒板を使って一斉指導する形の授業は行っていない。自学自習・個別指導形式で生徒の自律学習を支援しています。学校で先生の授業をよく聞いて教科書の内容を理解しようと努力していることが大前提で、その上で生徒たちは、問題演習を繰り返したり、理解が不足している部分をスタッフに質問したりして、1人1人が主体的・自発的に学んでいます。まちなか鳳雛塾を上手に活用し成果をあげている生徒は、自ら「学びに向かう力」を持っている人と言えます。

「学びに向かう力」は2020年度から小学校・中学校・高校で段階的に実施される次期学習指導要領の中で、育成を目指す「資質・能力」の3つの柱のうちの1つである重要な要素です。具体的には、自分の感情や行動を自分でコントロールする能力、自分の思考や行動・状態などを客観的にとらえる能力、自分ごととして勉強に取り組む態度や好奇心、学習に対する良い価値観、などを指しています。これらは学ぶための土台やエンジンとなる大切な力と言えます。知識・技能を身につけようとしてがんばろうにも「学びに向かう力」がなければ、学んだことが定着しなかったり学びが継続できなかったり、勉強の成果をあげにくい、ということは一時的に感じられる未来をしながら生きていくことが求められます。そのためには「学びに向かう力」を子どものうちから育てておくことがとても大切なのです。



（文部科学省資料より）

では「学びに向かう力」を育てるにはどうしたらよいのでしょうか。この力は子どもの生まれ持った個性だとか子どもが自分で育むもののようにも思えます。ですが最近の研究結果では、「学びに向かう力」は身近な大人の接し方や働きかけで育てることができるわかってきています。幼児期であれば、身近な大人が「子どもの意欲を尊重する」「子どもが自分で考えるようにうながす」といった「寄り添い型養育態度」をとることや、「生活習慣を整える」「協調性を育むために他者と楽しく関われる環境をつくる」こと、また小学生以降であれば、「わかった！できた！」といった達成感、学校の勉強と生活とのつながり、「もっと知りたい！解決したい！」と思う意欲、他者と学びあうことの意義や良さ、などを何度も経験・実感できる環境を身近な大人が作ることが大切なのだそうです。こうしたことを家庭や地域で意識しながら子どもたちの「学びに向かう力」を育てていくことが、学力・学習力の向上につながっていきます。

（プロジェクトコーディネーター 木村聡）

英語教育セミナーを開催しました



今後変化していく英語教育と入試に対してどんな準備をしたらよいのか、わかりやすく理解してもらう機会として、教育セミナー「入試の英語はどう変わる？」を10月5日にコンセルのとで開催しました。会場には英語教育に関心を持つ保護者や児童、生徒などが多数参加し、専門家の話に耳を傾けていました。

英語教育が変化し、これまで以上に「聴く・話す」力を伸ばすことを意識して、英語4技能をバランスよく学ぶことが求められます。まちなか鳳雛塾では英検受検のサポートやインターネットビデオ通話を活用した英会話レッスンを行っています。